

附 属 資 料

評価指標と評価及び目標値の設定理由

これからの食と未来を考えるための市民意識調査概要

計画策定の経過・市民意見公募結果

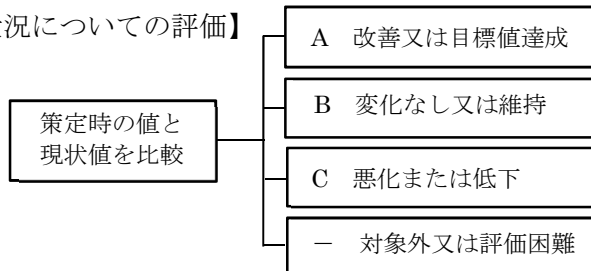
大和市食育推進会議設置要領

用語解説

評価指標と評価及び目標値の設定理由

第3次大和市食育推進計画において、食育の基本目標達成の目安とするため、国や県の食育基本計画に掲げる指標を参考に30の指標を設定しています。

【改善状況についての評価】



※1%未満の増減は変化なしで判定
 ※(新)は第3次計画からの新規評価指標

施策1 家庭における食育の推進

施策の ねらい	評価指標		第 2 次 策定 (H29～ 30 年)	第 2 次 目標値 (R6 年)	現状値 (R5 年)	判定	第 3 次 目標値 (R11 年)	評価及び目標値設定理由
01 家庭における食育を支援する	(新) 朝食を家族と一緒にとる市民（幼児）の割合	3 歳 6 か月児健康診査での問診結果	-	-	91.1%	-	94.0%	現状値は過去 5 年の平均値（93.6%）を下回っています。家族の生活スタイルが変化している現状があることを踏まえ、まずは現状値の回復を目標に、94.0%としました。
	朝食をほぼ毎日食べている市民の割合	①3 歳 6 か月児健康診査での問診結果	① 89.8% (H29)	① 100 %	① 91.1%	① A	① 100 %	①幼少期の心身の発達及び食習慣確立の重要性を考慮して、100%に近づけることとしました。 ②及び③神奈川県における令和 5 年度の調査結果が小学 5 年生 77.4%、中学 2 年生 74.6%と下降傾向のため、まずは現状値の回復を目指し、85%を目標としました。 ④第 2 次策定時より 7.3%の減少があり、現状を鑑み、80%としました。
		②及び③令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	② 81.6% (H29)	② 90.0%	② 77.4%	② C	② 85.0%	
		④市民意識調査で、朝食をほぼ毎日食べていると回答した市民の割合	③ 79.1% (H29)	③ 90.0%	③ 74.6%	③ C	③ 85.0%	
			④ 82.1% (H29)	④ 90.0%	④ 74.6%	④ C	④ 80.0%	
03 食を進め、食物アレルギーへの理解を深め、家庭における食の安全を推進する	食品の安全性に関する知識がある市民の割合	市民意識調査で、食品の安全性（食品の選択、調理法）についての知識がある、少しあると答えた市民の割合	59.2% (H30)	90.0%	54.9%	C	70.0%	国が掲げる目標値 80%及び県が掲げる目標値 90%を参考に、大和市の現状値から実現可能な目標に設定しました。

<施策1 成果と課題>

共食の減少や朝食欠食の増加は引き続き課題であり、これは国や県でも同様の傾向にあります。基本的な食生活や栄養に関する知識を伝える講座や教室等は、新型コロナウイルス感染症流行時においても、「新たな日常」に対応した動画や開催方法等の工夫により、食育の推進が維持出来ました。今後は従来型の体験する活動を維持しながら、デジタル技術も活用し、健康無関心層にも働きかけられるような、効果的な普及啓発をしていくことが必要と考えられます。

施策2 学校、保育所等における食育の推進

施策のねらい	評価指標		第2次策定時 (H29～30年)	第2次目標値 (R6年)	現状値 (R5年)	判定	第3次目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 授業等における指導の機会を増やす	食に関する指導の実施状況	担任教諭、養護教諭、栄養教諭・栄養士等が食に関する指導を実施している小中学校の割合。 （「食に関する指導」実施状況調査（神奈川県結果））	100% (H29)	100%	100%	A	—	第1次、第2次大和市食育推進計画とも目標を達成しているため、第3次は目標としませんでした。
	食に関する指導の回数（年間授業数）	栄養教諭・栄養士等による指導（年間授業時間数） 栄養教諭・栄養士を中核とする食育ネットワークを活用した指導（年間授業数）	225時間 (H29) —	242時間 —	112時間 (回) —	C —	— 242回	栄養教諭・栄養士を中核とする食育ネットワークでの食育の推進が必要なため、一部指標内容を変更しました。 学校給食の単独調理校8校を年間17回、受入校（小学校）11校を年間8回、受入校（中学校）9校を年間2回と設定しました。
03 02 学校給食等における食育を進める	（新）栄養教諭・栄養士による地場産物に係る食に関する指導の平均取り組み回数	栄養教諭・栄養士が実施している、地場産物に係る食に関する指導の回数（月間、各校あたり）	—	—	—	—	月12回以上	国及び県が目標を追加したため、新設しました。国及び県が掲げる目標値月12回を参考にしました。
	学校給食の残食率（主に野菜を使った料理） ①小学校 ②中学校	残食量／提供量（重さ）	①10% (H29) ②12% (H29)	①8.8% ②10.8%	①13.0% ②11.0%	①C ②A	①— ②—	国及び県の評価指標が変更になったため、それにあわせて、第3次は目標としませんでした。
	学校・公立保育所給食において地場産物を使用している割合	小中学校給食で使用している大和市内産及び神奈川県内産の食材の割合	20.2% (H29 食材数)	26.0% (食材数)	21.1% (食材数) 39.6% (金額)	B	39.6%以上 (金額)	国及び県の評価方法が食材数の割合から金額の割合に変更になったため、現状値以降は金額ベースで算出しています。国及び県では地場産物を使用している割合を現状値から維持・向上することを目標としているため、現状維持することを目標としました。
		公立保育所給食で使用している大和市内産及び神奈川県内産の食材の割合	13.7% (H29 食材数)	14.0% (食材数)	15.0% (食材数) 9.8% (金額)	B	9.8%以上 (金額)	
	（新）学校・公立保育所給食において国産食材を使用している金額割合	小中学校給食で使用している国産食材の割合	—	—	91.0%	—	91.0%以上	国及び県にならい新設しています。 国及び県では国産食材を使用している割合を現状値から維持・向上することを目標としているため、現状維持することを目標としました。
		公立保育所給食で使用している国産食材の割合	—	—	72.5%	—	72.5%以上	
04 食物アレルギーへの理解と安全な給食提供を進める	食物アレルギー研修参加者の理解度 ①小中学校 ②保育所	食物アレルギー研修の参加者アンケートで、理解できたと答えた人の割合	①100% (H29) ②92.4% (H29)	①100% ②95.0%	①100% ②100%	①A ②A	①100% ②100%	小中学校・保育所においては、現状値を維持することを目標としました。

＜施策2 成果と課題＞

食に関する指導や食物アレルギー研修については、目標値である100%を達成する等成果を上げています。また、給食における地場農産物の使用についても、安定供給が難しい本市において、関係機関や生産者との連携を深めることで、使用割合が増加しました。更なる食育の推進には、栄養教諭・栄養士を中核とした食育ネットワークの充実や地場産物を活用した食育はもとより、保育所から高等学校まで、切れ目なく食育推進が取り組めるような支援も必要です。

施策3 地域における食育の推進

施策のねらい	評価指標		第2次策定時 (H29～30年)	第2次目標値 (R6年)	現状値 (R5年)	判定	第3次目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 地域連携を進める手続	食育の推進に関わるボランティアの人数	食生活改善推進員及び学校や地域等における食育の取組への協力者の人数	162人 (H30)	維持	181人	A	維持	食生活改善推進員の人数が減少傾向にあるため、現状を維持することを目標としました。
02 食育推進のための意識啓発を進める	食育に関心を持っている市民の割合	市民意識調査で、食育について関心がある、どちらかといえば関心があると答えた市民の割合	74.1% (H30)	90.0%	66.7%	C	90.0%	割合は女性 72.9%、男性 57.8%と男性で低くなり、関心がないの割合は19歳以下で 53.0%と最も高くなっています。国及び県が掲げる目標値 90%を参考に設定しました。
	(新)塩分を摂りすぎないようにするために取り組んでいることがある市民の割合	市民意識調査で、塩分を摂りすぎないようにする(減塩する)ために取り組んでいることを答えた市民の割合	—	—	79.5%	—	80.0%	生活習慣病の予防や改善のために必要な指標として新設しました。国が掲げる目標値 75%以上にない、現状維持を目標としました。
03 食料品の安全性や栄養等に関する情報提供	食料品選択にあたって栄養価を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、栄養価を選んだ市民の割合	21.4% (H30)	26.0%	19.7%	C	26.0%	啓発活動を進めることで、現状値から年 1.0%増加することを目指しました。
	食料品選択にあたって安全性を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、安全性を選んだ市民の割合。	53.5% (H30)	80.0%	52.1%	C	80.0%	国が掲げる目標値 80%及び県が掲げる目標値 90%を参考に設定しました。

<施策3 成果と課題>

国で減少している食育のボランティア数は、目標値を達成しています。一方で、食への関心や栄養価等への意識は前回調査時よりも下がっており、国や県でも同様の傾向にあります。ICT等のデジタル技術を有効的に活用するとともに、関心の低い男性、若い世代等への更なる推進が必要です。また、減塩対策や近年食育への影響の大きい感染症や災害等、社会情勢を踏まえた取り組みが求められています。

施策4 多様な関係者と取り組む食育の推進

施策のねらい	評価指標		第2次策定時 (H29～30年)	第2次目標値 (R6年)	現状値 (R5年)	判定	第3次目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 食に関する意識啓発と食育を進める	十分な量の野菜を食べている市民の割合	市民意識調査で、十分な量の野菜を食べていると思うと回答した市民の割合 十分な量は、1回の食事で生野菜なら両手一杯、ゆでた野菜なら片手に軽く一杯	44.9% (H30)	50.0%	39.7%	C	43.0%	令和4年度国民健康・栄養調査で十分な量の野菜(350g以上)を摂取している割合は、男性28.9%、女性24.8%です。適切な摂取量の普及啓発することで、現状値から年0.5%の増加を目標としました。
	ふだん誰かと一緒に食事をする市民の割合	市民意識調査で、1日に1食以上を家族や友人と食べると回答した市民の割合	77.6% (H30)	90.0%	75.4%	C	80.0%	前回割合の低かった男性が1.3%増加(72.8%)、女性は4.8%減少(77.1%)しているため、それぞれ若干の増加を目指すことを目標としました。
	適切な食事内容、量をよく知っている市民の割合	市民意識調査で、適切な食事(必要なエネルギー量、栄養バランスなど)をよく知っている、だいたい知っている市民の割合	48.9% (H30)	53.0%	52.6%	A	59.0%	啓発活動を進めることで、現状値から年1.0%程度増加することを目指しました。
	食育イベントの参加人数	やまと食育フェア等の食育イベントの参加人数	870人 (H30)	増加	1,777人	A	増加	来場者数は天候などにより大幅に変動しますが、少しでも増加させることを目標としました。
02 食健康環境づくりを支援する	やまと食の応援団に登録している飲食店の数	やまと食の応援団に登録している飲食店の数(年度末時点)	32店 (H30)	100店	101店	A	100店	近隣市と比較し、現状維持の目標としました。

<施策4 成果と課題>

市が主導で進めている食育イベントや健康的な食環境支援は、新型コロナウイルス感染症流行下でも実施方法を工夫し成果を上げました。適正な食事内容、量をよく知っている市民の割合も、ほぼ目標を達成しました。今後、野菜の摂取量の増加や健康無関心層への働きかけのため、普及啓発内容を変更し、関係団体との連携を充実させる必要があります。

施策5 地産地消や食を取り巻く環境に配慮した取り組み

施策のねらい	評価指標		第2次策定時 (H29～30年)	第2次目標値 (R6年)	現状値 (R5年)	判定	第3次目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 地産地消を進める	食料品を選ぶときに、地場産品を重視する市民の割合	市民意識調査で、食料品を選ぶときに重視することとして、地場産品を選んだ市民の割合。	12.8% (H30)	17.0%	14.0%	A	20.0%	地場産品を重視する市民は、男性 8.7%、女性 17.7%であり、男性の割合が比較的低いことがうかがえます。年 1.0%の増加で、全体が現在の女性の水準を上回ることを目標としました。
	自分で野菜を作った経験がある市民の割合	市民意識調査で、自分で野菜を作った経験があると答えた市民の割合。	46.3% (H30)	50.0%	46.8%	A	50.0%	大和市民農園や大和市民朝霧市など農業を知る機会を通して、野菜作りへの興味・関心を喚起し、まず半数に達することを目標とします。
02 食品ロスの削減につながる食育を進める	(新) 食品ロス削減のために取り組んでいる市民の割合	市民意識調査で、食品ロス削減のために取り組んでいることを答えた市民の割合	—	—	89.5%	—	96.0%以上	国の指標に追加され、持続可能な社会の実現に必要なため、国の掲げる目標値 80%以上及び県の掲げる目標値 96%以上を参考としました。

<施策5 成果と課題>

産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合が減少する中、本市では、地場産品を重視する市民の割合や野菜を作った経験のある市民の割合が増加しました。持続可能な食を支える食育推進としては、地産地消だけでなく食品ロスの削減も重要であることから、今後も環境に配慮した食育を推進していくことが必要です。

施策6 食文化の継承に向けた食育の推進

施策のねらい	評価指標		第2次策定時 (H29～30年)	第2次目標値 (R6年)	現状値 (R5年)	判定	第3次目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 地域的な行事食を知る	学校、保育所給食における行事食の提供回数 ①小中学校 ②公立保育所	学校給食、公立保育所給食における行事食（日本の伝統的な行事）の提供回数。	① 9回 (H29) ②11回 (H29)	① 9回 ②11回	① 9回 ②11回	①A ②A	① 9回 ②11回	小中学校、公立保育所での行事食の提供回数を、それぞれの状況に応じて、維持させることを目標としました。
02 食文化への興味を引きだし、担い手を育成する	(新) 郷土料理や伝統料理を月一回以上食べる市民の割合	市民意識調査で、郷土料理や伝統料理を月一回以上食べると回答した市民の割合	—	—	9.5%	—	15.5%	国の指標に追加され、日本の食文化継承のために必要なため新設しました。郷土料理や伝統料理の普及啓発を進め、年1.0%の増加を目標としました。 国：50%以上
	食品の選択や調理に関して、行事食や伝統食についての知識を身につけたいと考えている市民の割合	市民意識調査で、食品の選択や調理に関して身につけたい知識として、行事食や伝統食を選択した市民の割合。	8.5% (H30)	14.0%	8.2%	B	14.0%	30～40歳代の女性の割合が高い（30歳代24.3%、40歳代23.1%）ため、健診や料理教室を中心にPRを進め、女性と家族などへも関心を広げ、年1.0%の増加を目標としました。

＜施策6 成果と課題＞

豊かな自然に根差した行事食や配膳・食事の作法といった伝統的な食文化の継承が求められる中、学校、保育所給食では行事食の目標提供回数を達成し、その由来や意味などを伝えることで、食文化の継承に寄与しました。地域では食生活改善推進員を始めとする関係者と連携・協働することにより、次世代への郷土料理等も含めた食文化継承に取り組む必要があります。

施策7 健康寿命の延伸につながる食育の推進

施策の ねらい	評価指標		第2次 策定時 (H29～ 30年)	第2次 目標値 (R6年)	現状値 (R5年 5年)	判定	第3次 目標値 (R11年)	評価及び目標値設定理由
01 生活習慣病等の予防・改善を進める	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	大和市特定健康診査結果において、メタボリックシンドローム該当及び予備群と判定された者の割合	28.4% (H29)	23.0%	32.5%	C	26.5%	メタボリックシンドロームの該当者とその予備群を年1.0%減少させることを目標としました。
	1日に2食以上、主食、主菜、副菜のそろった食事をしている市民の割合	市民意識調査における割合 ①65歳未満 ②65歳以上	全体平均 72.1% ①60.3% ②90.6% (H30)	①65.0% ②90.0%	①61.1% ②82.5%	①B ②C	—	国、県の指標に合わせ、区分を65歳未満と65歳以上から市民と若い世代（20～39歳）へ変更しました。 国の目標値③50%④40%、県の目標値③60%④40%を上回っているため、それぞれ若干の増加を目標としました。
		③市民 ④20～39歳	—	—	③67.3% ④58.6%	—	③ 70% ④ 60%	
	汗をかく程度の運動を、週に1日以上している市民の割合	市民意識調査で、汗をかく程度の運動（ウォーキング、ジョギング、スポーツなど）を、週に1日以上していると回答した市民の割合	51.0% (H30)	56.0%	46.9%	C	50.0%	健康日本21（第三次）目標値 20～64歳 30%、65歳以上50%を参考に、生活習慣病予防と健康増進を進め、半数に達することを目標としました。
02 シニア世代の食生活改善を進める	65歳以上で低栄養状態のおそれのある市民の割合	BMIが18.5kg/m ² 未満で、半年間で2～3kg以上体重が減少した者の割合（大和市介護予防アンケート結果より）	1.3% (H29)	1.0%	1.3%	B	1.0%	今後65歳以上の人口は増えることから、低栄養状態の市民を0.3%減少させることを目標としました。
	65歳以上で低栄養状態が改善された市民の割合	介護予防アンケートまたは健診結果から抽出し、管理栄養士が栄養相談したことにより体重を改善した割合	40.3% (H29)	40.0%	32.3%	C	—	低栄養予防の対象者は、6か月で体重が2～3kg減少しているため、維持も成果であると考え、改善率から維持改善率の指標へ変更し、1.5%増加することを目標としました。
		維持・改善した割合	—	—	80.3%	—	82.0%	
03 若い世代の食生活改善を進める	(新) 若い女性のやせのリスクを知っている者の割合	市民意識調査で、やせのリスクで知っていることを答えた市民の割合	—	—	79.9%	—	82.9%	出産する前の女性の栄養について近年問題となっており、生涯を通じた心身の健康を支えるために必要なため新設しました。 現状から年0.5%の増加を目標としました。

＜施策7 成果と課題＞

国の第4次食育推進基本計画のフォローアップ中間取りまとめでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により心身が受けた影響として「運動不足」、「体重増加」、「食事バランスの乱れ」などが挙げられており、本市でも生活リズムやライフスタイルに変化が生じ、目標値を達成できなかった指標が多かったと考えられます。そうした要因を考慮しながら、個々の課題に応じて積極的な取り組みを進める必要があります。

これからの食と未来を考えるための市民意識調査 結果（概要）

■ 調査設計

調査地域：大和市全域

調査対象：大和市に居住する18歳以上の男女

標本数：2,500人

抽出方法：住民基本台帳にもとづく単純無作為抽出

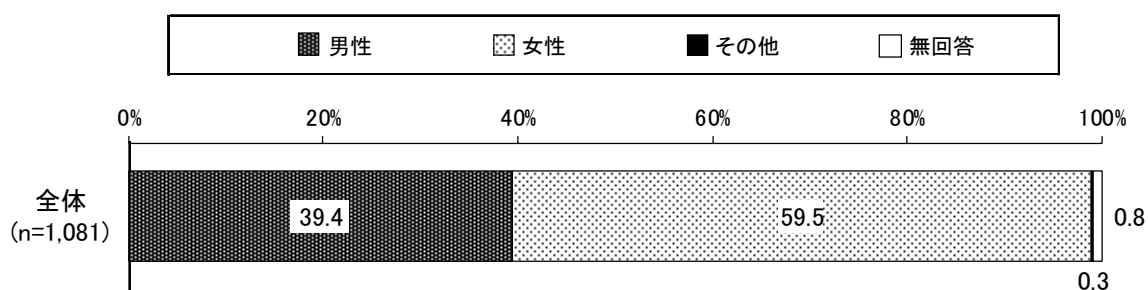
回収数：1,081人（有効回収率：43.2%）

調査期間：令和5年5月下旬～6月上旬

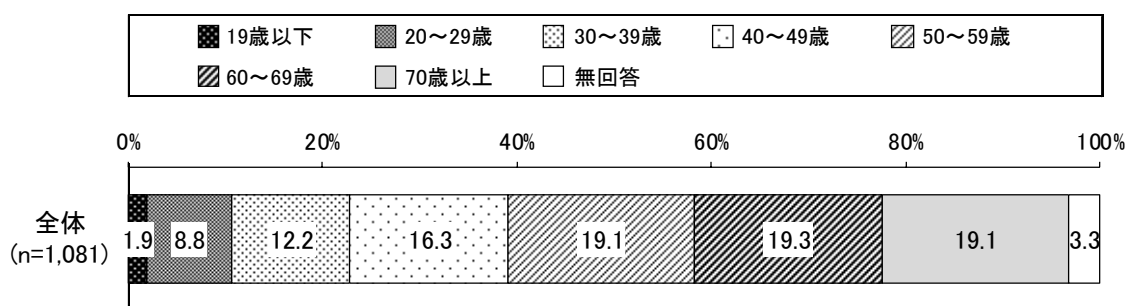
■ 調査結果

（１）回答者の属性

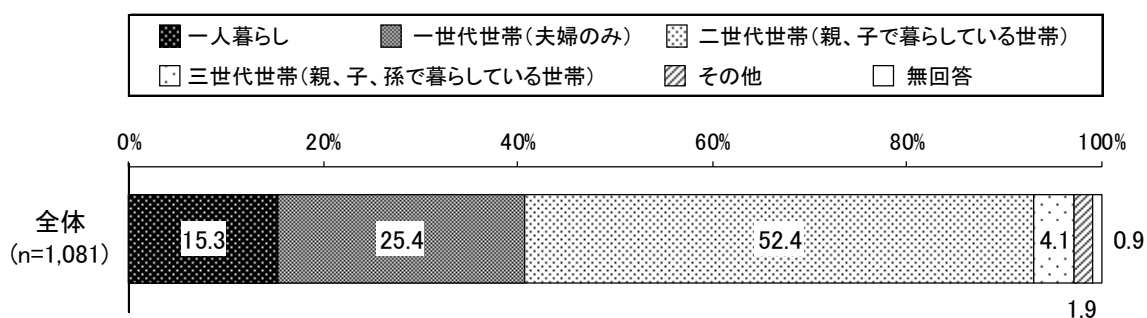
[性別]



[年齢]

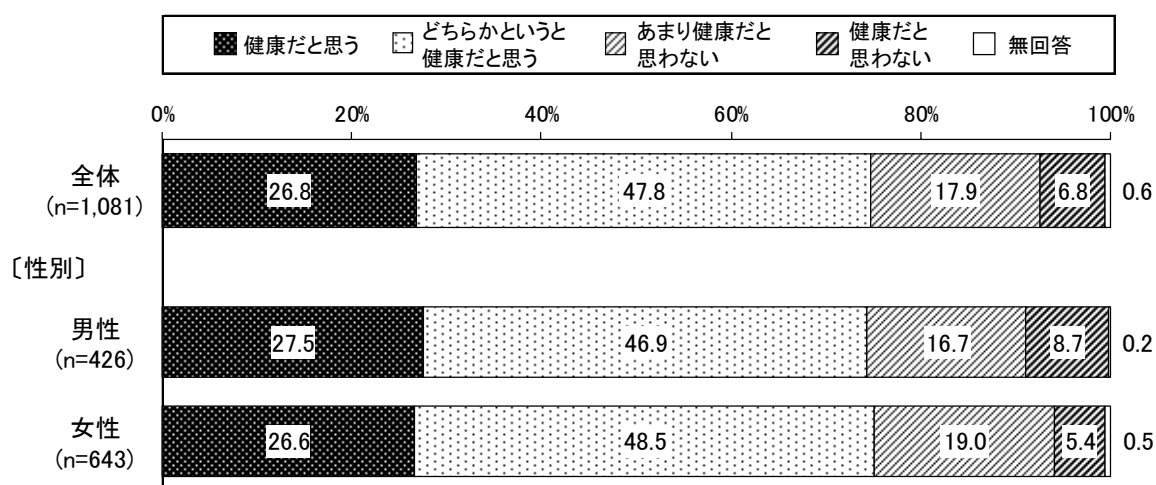


[世帯構成]



(2) 食育に関わる内容について

1 あなたは、自分自身が健康だと思いますか。

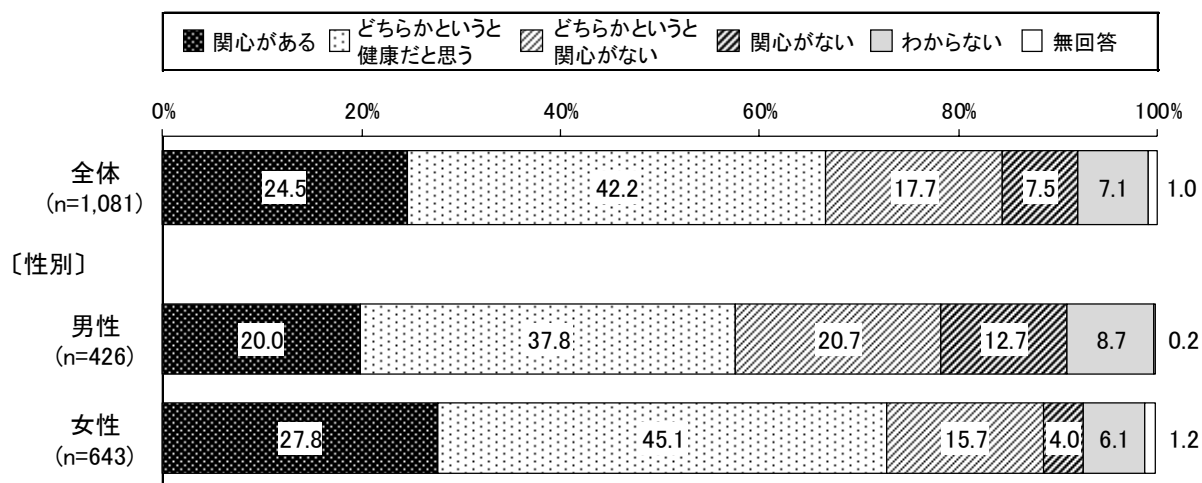


〔性・年齢別〕

		回答数	健康だと思う	どちらかという健康だと思う	あまり健康だと思わない	健康だと思わない	無回答
男性	19歳以下	10	70.0	20.0	—	10.0	—
	20～29歳	39	30.8	46.2	12.8	7.7	2.6
	30～39歳	50	34.0	48.0	10.0	8.0	—
	40～49歳	72	34.7	44.4	18.1	2.8	—
	50～59歳	84	13.1	58.3	20.2	8.3	—
	60～69歳	90	25.6	50.0	15.6	8.9	—
	70歳以上	79	27.8	36.7	20.3	15.2	—
女性	19歳以下	10	50.0	40.0	10.0	—	—
	20～29歳	55	38.2	45.5	14.5	1.8	—
	30～39歳	81	39.5	44.4	14.8	—	1.2
	40～49歳	104	25.0	51.0	16.3	6.7	1.0
	50～59歳	123	25.2	43.9	22.0	8.9	—
	60～69歳	119	19.3	58.8	16.8	4.2	0.8
	70歳以上	126	22.2	46.0	24.6	7.1	—

「健康だと思う」と「どちらかという健康だと思う」を合わせた《健康だと思う》の割合が74.6%、「あまり健康だと思わない」と「健康だと思わない」を合わせた《健康だと思わない》の割合が24.7%となっています。性・年齢別にみると、男性は49歳以下、女性は39歳以下で「健康だと思う」が3割以上となっています。

2 食育について関心がありますか。



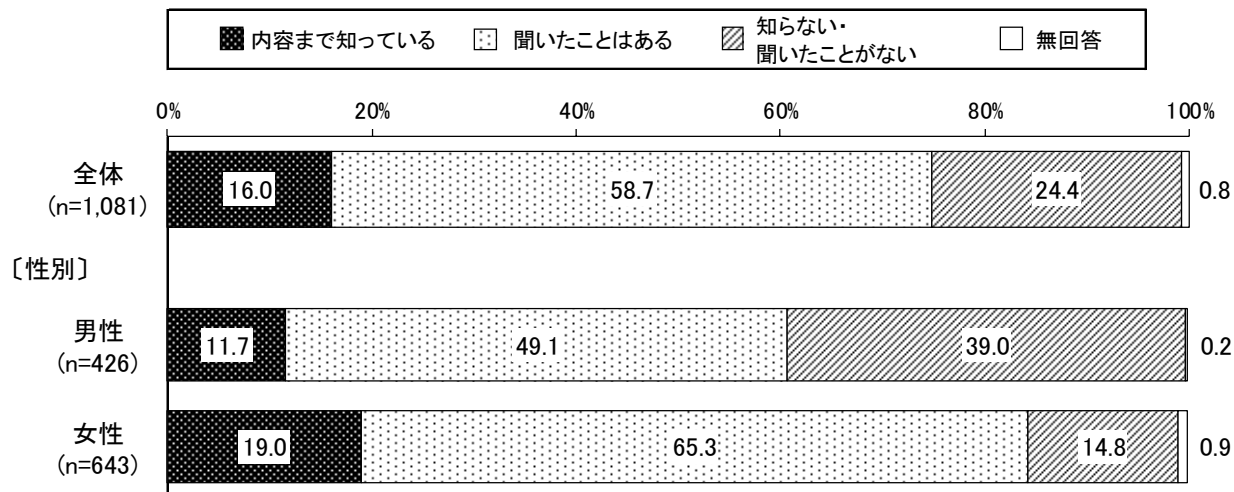
〔性・年齢別〕

		回答数	関心がある	どちらかといえ ば関心がある	どちらかという と関心がない	関心がない	わからない	無回答
男性	19歳以下	10	10.0	50.0	10.0	30.0	—	—
	20～29歳	39	20.5	41.0	10.3	15.4	10.3	2.6
	30～39歳	50	22.0	42.0	12.0	12.0	12.0	—
	40～49歳	72	29.2	30.6	15.3	19.4	5.6	—
	50～59歳	84	13.1	39.3	26.2	14.3	7.1	—
	60～69歳	90	24.4	35.6	30.0	5.6	4.4	—
	70歳以上	79	13.9	39.2	21.5	8.9	16.5	—
女性	19歳以下	10	10.0	50.0	30.0	—	10.0	—
	20～29歳	55	20.0	36.4	18.2	9.1	16.4	—
	30～39歳	81	25.9	49.4	11.1	9.9	2.5	1.2
	40～49歳	104	31.7	41.3	16.3	2.9	5.8	1.9
	50～59歳	123	30.1	44.7	17.9	3.3	4.1	—
	60～69歳	119	23.5	47.1	18.5	1.7	7.6	1.7
	70歳以上	126	31.7	47.6	12.7	3.2	3.2	1.6

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた《関心がある》の割合が66.7%、「どちらかというに関心がない」と「関心がない」を合わせた《関心がない》の割合が25.2%となっています。

3 食事バランスガイドを知っていますか。

食事バランスガイド：主食（ごはん、パン、麺など）、主菜（魚や肉などのおかず）、副菜（野菜などのおかず）などを1日にどれだけ食べたらよいかの目安を表したものです。

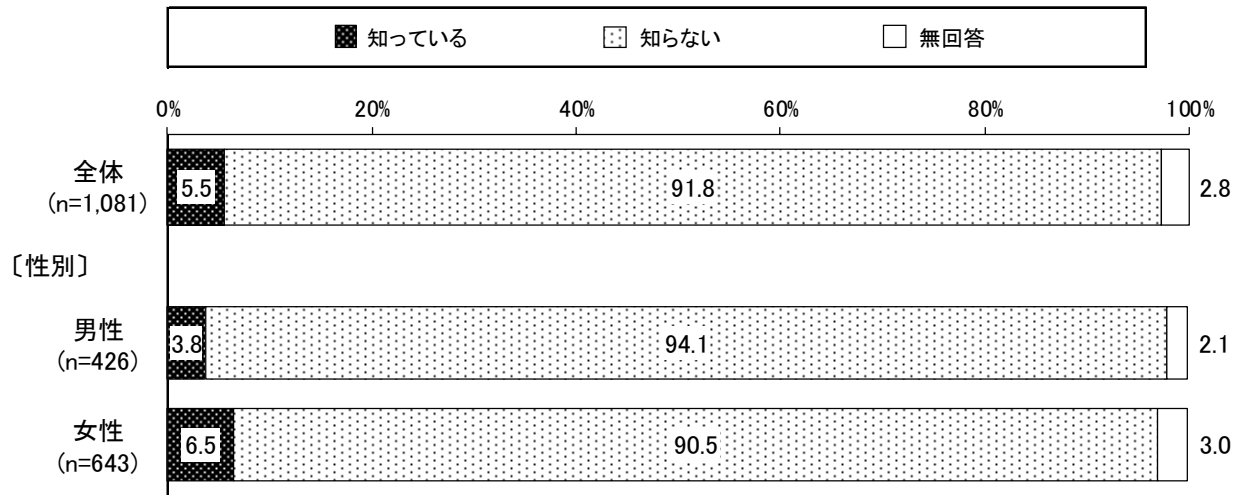


〔性・年齢別〕

		回答数	内容まで知っている	聞いたことはある	知らない・聞いたことがない	無回答
男性	19歳以下	10	30.0	30.0	40.0	—
	20～29歳	39	17.9	59.0	20.5	2.6
	30～39歳	50	18.0	44.0	38.0	—
	40～49歳	72	11.1	58.3	30.6	—
	50～59歳	84	11.9	35.7	52.4	—
	60～69歳	90	7.8	50.0	42.2	—
	70歳以上	79	7.6	55.7	36.7	—
女性	19歳以下	10	10.0	90.0	—	—
	20～29歳	55	30.9	63.6	3.6	1.8
	30～39歳	81	13.6	64.2	21.0	1.2
	40～49歳	104	22.1	68.3	8.7	1.0
	50～59歳	123	20.3	59.3	20.3	—
	60～69歳	119	12.6	69.7	16.8	0.8
	70歳以上	126	19.0	64.3	15.9	0.8

「聞いたことはある」の割合が58.7%と最も高く、「知らない・聞いたことがない」が24.4%、「内容まで知っている」が16.0%となっています。

4 あなたは「大和市食育推進計画」を知っていますか。



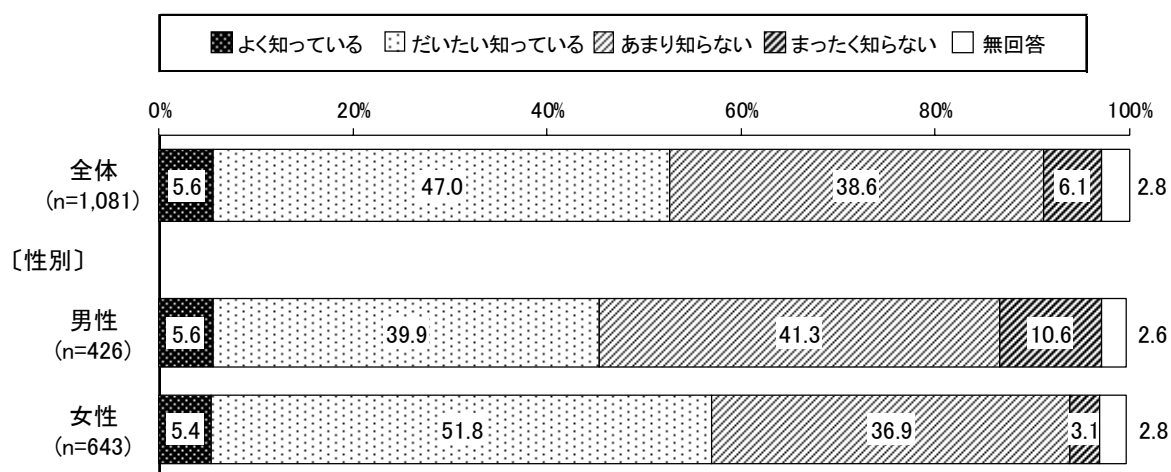
〔性・年齢別〕

		回答数	知っている	知らない	無回答
男性	19歳以下	10	—	100.0	—
	20～29歳	39	—	97.4	2.6
	30～39歳	50	2.0	98.0	—
	40～49歳	72	6.9	91.7	1.4
	50～59歳	84	2.4	95.2	2.4
	60～69歳	90	3.3	94.4	2.2
	70歳以上	79	6.3	89.9	3.8
女性	19歳以下	10	10.0	90.0	—
	20～29歳	55	3.6	96.4	—
	30～39歳	81	1.2	98.8	—
	40～49歳	104	5.8	92.3	1.9
	50～59歳	123	5.7	92.7	1.6
	60～69歳	119	5.0	92.4	2.5
	70歳以上	126	13.5	79.4	7.1

「知っている」の割合が5.5%、「知らない」の割合が91.8%となっています。

(3) 食生活について

1 あなたにとっての適切な食事（必要なエネルギー、栄養バランスなど）を知っていますか。



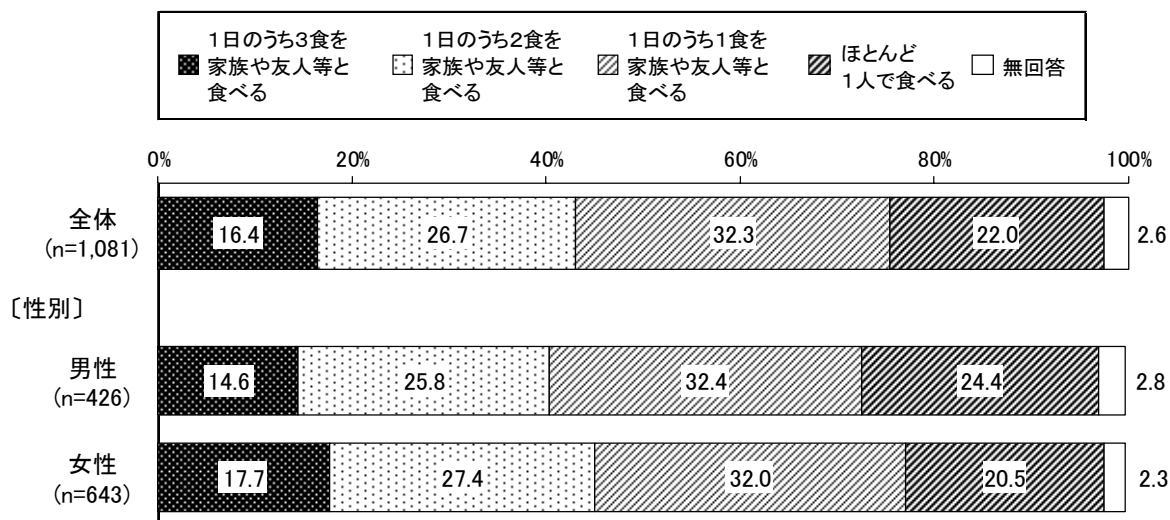
〔性・年齢別〕

		回答数	よく知っている	だいたい知っている	あまり知らない	まったく知らない	無回答
男性	19歳以下	10	20.0	40.0	40.0	—	—
	20～29歳	39	12.8	38.5	35.9	10.3	2.6
	30～39歳	50	12.0	44.0	30.0	14.0	—
	40～49歳	72	2.8	44.4	36.1	13.9	2.8
	50～59歳	84	3.6	33.3	50.0	10.7	2.4
	60～69歳	90	4.4	38.9	46.7	7.8	2.2
	70歳以上	79	2.5	43.0	41.8	7.6	5.1
女性	19歳以下	10	—	50.0	40.0	10.0	—
	20～29歳	55	9.1	40.0	49.1	1.8	—
	30～39歳	81	3.7	40.7	50.6	3.7	1.2
	40～49歳	104	4.8	48.1	42.3	3.8	1.0
	50～59歳	123	3.3	54.5	35.8	5.7	0.8
	60～69歳	119	5.9	52.1	37.8	1.7	2.5
	70歳以上	126	8.7	62.7	21.4	0.8	6.3

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた《知っている》の割合が52.6%、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた《知らない》の割合が44.7%となっています。

性別にみると、《知っている》の割合は男性45.5%に対し、女性57.2%と差がみられます。

2 ふだん誰かと一緒に食事をしていますか。



〔性・年齢別〕

		回答数	1日のうち3食を 家族や友人等と 食べる	1日のうち2食を 家族や友人等と 食べる	1日のうち1食を 家族や友人等と 食べる	ほとんど 1人で食べる	無回答
男性	19歳以下	10	20.0	30.0	50.0	—	—
	20～29歳	39	10.3	30.8	33.3	23.1	2.6
	30～39歳	50	12.0	22.0	36.0	28.0	2.0
	40～49歳	72	6.9	15.3	50.0	25.0	2.8
	50～59歳	84	2.4	26.2	42.9	25.0	3.6
	60～69歳	90	16.7	34.4	23.3	23.3	2.2
	70歳以上	79	35.4	24.1	10.1	26.6	3.8
女性	19歳以下	10	20.0	60.0	20.0	—	—
	20～29歳	55	16.4	18.2	34.5	30.9	—
	30～39歳	81	17.3	37.0	34.6	9.9	1.2
	40～49歳	104	8.7	27.9	44.2	18.3	1.0
	50～59歳	123	8.9	30.1	42.3	17.9	0.8
	60～69歳	119	16.8	26.9	29.4	25.2	1.7
	70歳以上	126	35.7	19.8	13.5	25.4	5.6

〔世帯構成別〕

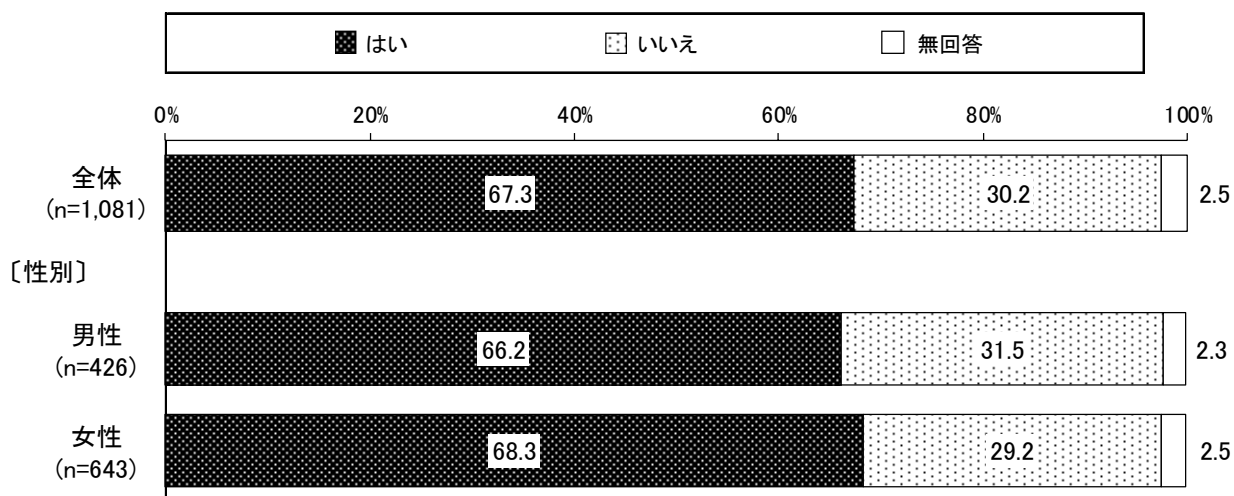
	回答数	1日のうち3食を 家族や友人等と 食べる	1日のうち2食を 家族や友人等と 食べる	1日のうち1食を 家族や友人等と 食べる	ほとんど 1人で食べる	無回答
一人暮らし	165	0.6	2.4	13.3	81.2	2.4
一世代世帯	275	26.9	31.3	32.7	8.4	0.7
二世帯世帯	566	14.8	31.4	37.3	13.1	3.4
三世帯世帯	44	29.5	34.1	27.3	6.8	2.3
その他	21	14.3	23.8	42.9	14.3	4.8

「1日のうち1食を家族や友人等と食べる」の割合が32.3%と最も高く、次いで「1日のうち2食を家族や友人等と食べる」26.7%、「ほとんど1人で食べる」22.0%、「1日のうち3食を家族や友人等と食べる」16.4%と続いています。

性・年齢別にみると、男性ではほぼ全ての年代で「ほとんど1人で食べる」が2割台、女性では20歳代が約3割と高くなっています。

世帯構成別にみると、一人暮らしの人は「ほとんど1人で食べる」が約8割となっています。

3 1日2食以上、主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。
 (主食は、ごはん、パン、麺など。主菜は、魚や肉などのおかず。副菜は、野菜などのおかず)



〔性・年齢別〕

		回答数	はい	いいえ	無回答
男性	19歳以下	10	70.0	30.0	—
	20～29歳	39	61.5	35.9	2.6
	30～39歳	50	64.0	36.0	—
	40～49歳	72	55.6	43.1	1.4
	50～59歳	84	59.5	38.1	2.4
	60～69歳	90	72.2	24.4	3.3
	70歳以上	79	79.7	16.5	3.8
女性	19歳以下	10	60.0	40.0	—
	20～29歳	55	49.1	50.9	—
	30～39歳	81	60.5	38.3	1.2
	40～49歳	104	60.6	38.5	1.0
	50～59歳	123	60.2	38.2	1.6
	60～69歳	119	74.8	22.7	2.5
	70歳以上	126	90.5	4.0	5.6

〔世帯構成別〕

	回答数	はい	いいえ	無回答
一人暮らし	165	56.4	40.6	3.0
一世代世帯	275	76.0	23.6	0.4
二世帯世帯	566	66.1	30.9	3.0
三世帯世帯	44	75.0	20.5	4.5
その他	21	61.9	33.3	4.8

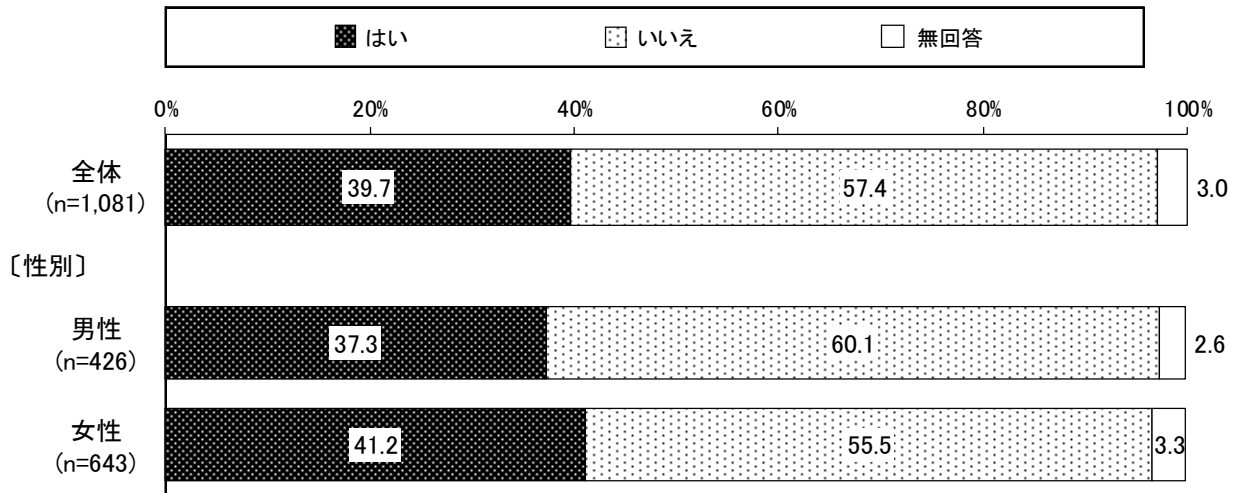
主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人は67.3%と、約3分の2の割合となっています。

性・年齢別にみると、男性は40～50歳代、女性は20歳代で主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人の割合が6割を下回っており、特に女性20歳代は半数を切っています。

世帯構成別にみると、一人暮らしの人は主食・主菜・副菜のそろった食事をしている人の割合が56.4%と、他と比べてやや低くなっています。

4 あなたは十分な量の野菜を食べていると思いますか。

(十分な量の目安は、1回の食事で生野菜なら両手一杯、ゆでた野菜なら片手に軽く一杯)



〔性・年齢別〕

		回答数	はい	いいえ	無回答
男性	19歳以下	10	60.0	40.0	—
	20～29歳	39	38.5	59.0	2.6
	30～39歳	50	30.0	70.0	—
	40～49歳	72	29.2	69.4	1.4
	50～59歳	84	36.9	59.5	3.6
	60～69歳	90	45.6	51.1	3.3
	70歳以上	79	36.7	59.5	3.8
女性	19歳以下	10	40.0	60.0	—
	20～29歳	55	30.9	69.1	—
	30～39歳	81	30.9	67.9	1.2
	40～49歳	104	38.5	60.6	1.0
	50～59歳	123	37.4	61.8	0.8
	60～69歳	119	47.9	49.6	2.5
	70歳以上	126	50.8	39.7	9.5

〔世帯構成別〕

	回答数	はい	いいえ	無回答
一人暮らし	165	30.3	66.1	3.6
一世代世帯	275	46.9	50.9	2.2
二世帯世帯	566	39.2	58.1	2.7
三世帯世帯	44	38.6	54.5	6.8
その他	21	38.1	57.1	4.8

〔健康観別〕

	回答数	はい	いいえ	無回答
健康だと思う	290	45.9	50.7	3.4
どちらかというと健康だと思う	517	42.7	55.1	2.1
あまり健康だと思わない	193	26.4	68.9	4.7
健康だと思わない	74	29.7	68.9	1.4

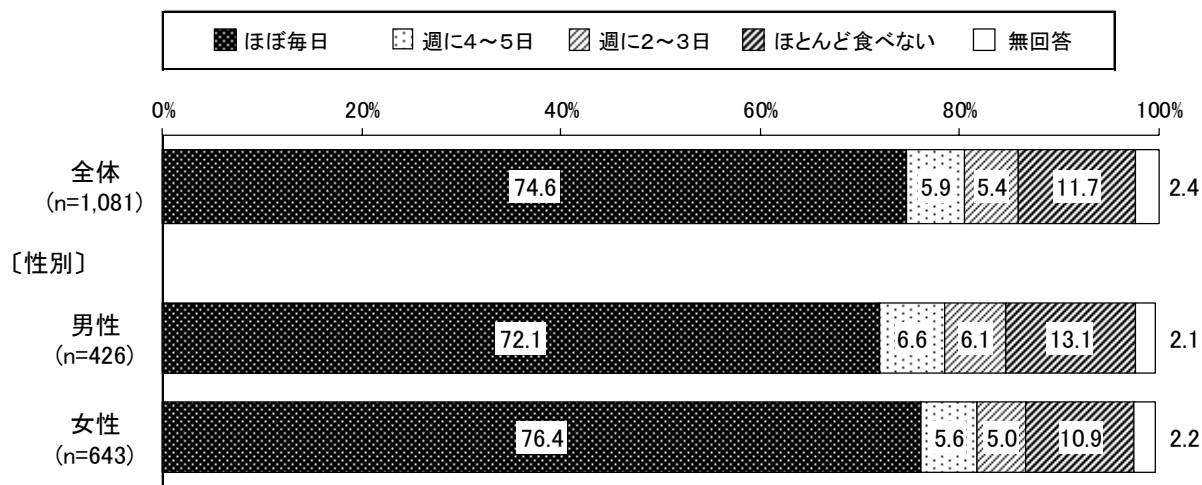
「はい」の割合が39.7%と4割を下回っています。

性・年齢別にみると、男性は30・40歳代、女性は20・30歳代で「はい」の割合が約3割と低くなっています。

世帯構成別にみると、「はい」は一人暮らしの人で約3割と最も低くなっています。

健康観別にみると、「あまり健康だと思わない」、「健康だと思わない」と回答した人は「はい」の割合が3割を下回っています。

5 あなたは朝食を食べていますか。



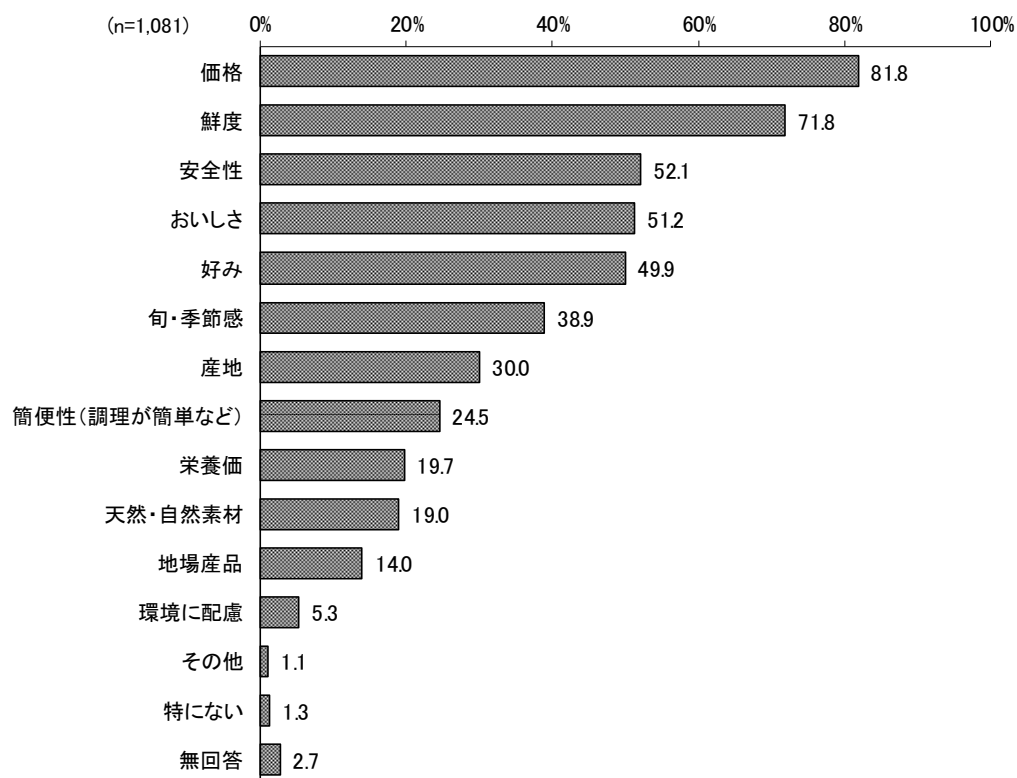
〔性・年齢別〕

		回答数	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんど食べない	無回答
男性	19歳以下	10	80.0	–	20.0	–	–
	20～29歳	39	56.4	15.4	10.3	15.4	2.6
	30～39歳	50	78.0	4.0	10.0	8.0	–
	40～49歳	72	56.9	13.9	8.3	20.8	–
	50～59歳	84	72.6	6.0	4.8	15.5	1.2
	60～69歳	90	77.8	1.1	4.4	13.3	3.3
	70歳以上	79	82.3	5.1	1.3	6.3	5.1
女性	19歳以下	10	40.0	40.0	20.0	–	–
	20～29歳	55	60.0	9.1	10.9	20.0	–
	30～39歳	81	72.8	3.7	6.2	16.0	1.2
	40～49歳	104	69.2	9.6	5.8	12.5	2.9
	50～59歳	123	70.7	4.9	4.9	17.9	1.6
	60～69歳	119	85.7	3.4	2.5	5.0	3.4
	70歳以上	126	90.5	0.8	3.2	3.2	2.4

朝食を「ほぼ毎日」食べている人の割合が74.6%と約4分の3を占めており、「ほとんど食べない」の割合は11.7%となっています。

性・年齢別にみると、「ほとんど食べない」人は、男性は40歳代、女性は20歳代で約2割と、他と比べてやや高くなっています。

6 食料品を選ぶときに、重視することは何ですか。



〔性別・／性・年齢別〕

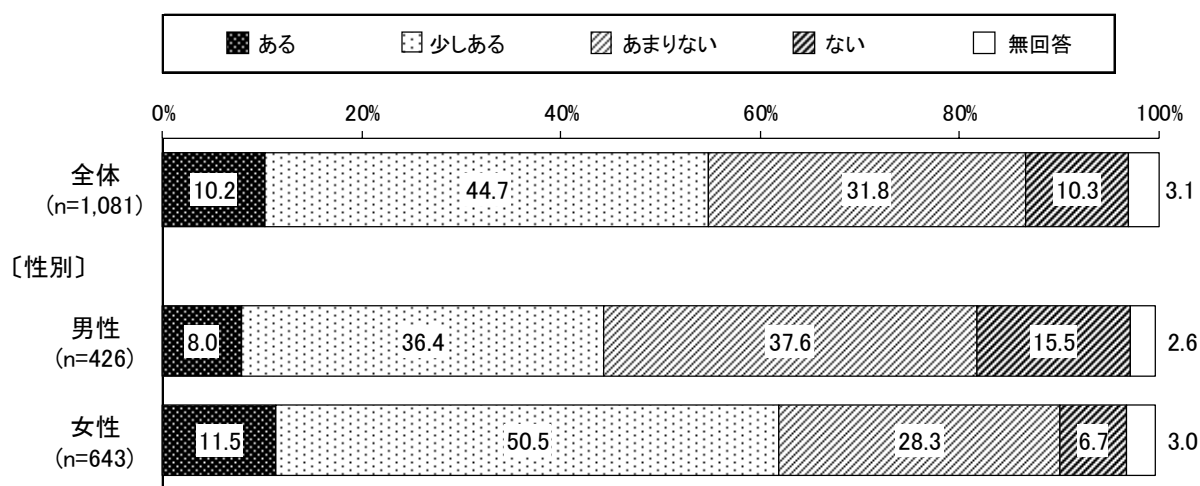
		回答数	価格	鮮度	安全性	おいしさ	好み	旬・季節感	産地	簡便性 (調理が簡単 など)	栄養価	天然・ 自然素材	地場産 品	環境に 配慮	その他	特になし	無回答
性別	男性	426	80.3	62.2	43.7	45.3	48.6	27.2	21.4	18.8	14.3	13.8	8.7	3.5	1.4	2.6	2.8
	女性	643	83.0	78.5	57.7	55.2	51.3	46.7	35.8	28.1	23.0	22.1	17.7	6.4	0.9	0.5	2.3
男性	19歳以下	10	70.0	40.0	30.0	40.0	50.0	10.0	30.0	-	20.0	10.0	10.0	10.0	-	30.0	-
	20～29歳	39	79.5	53.8	35.9	46.2	38.5	10.3	5.1	7.7	17.9	5.1	-	-	-	5.1	2.6
	30～39歳	50	86.0	52.0	34.0	44.0	44.0	36.0	20.0	26.0	16.0	12.0	4.0	6.0	-	-	2.0
	40～49歳	72	84.7	54.2	48.6	44.4	51.4	30.6	19.4	22.2	19.4	16.7	4.2	8.3	4.2	4.2	-
	50～59歳	84	89.3	70.2	45.2	46.4	59.5	23.8	33.3	21.4	10.7	11.9	15.5	-	2.4	1.2	1.2
	60～69歳	90	75.6	67.8	42.2	50.0	53.3	26.7	24.4	14.4	12.2	15.6	8.9	3.3	-	-	4.4
	70歳以上	79	69.6	68.4	50.6	39.2	36.7	32.9	13.9	19.0	11.4	16.5	12.7	2.5	1.3	2.5	6.3
女性	19歳以下	10	90.0	60.0	80.0	70.0	60.0	20.0	30.0	20.0	30.0	20.0	-	20.0	-	-	-
	20～29歳	55	85.5	49.1	47.3	54.5	63.6	32.7	20.0	27.3	10.9	9.1	1.8	5.5	-	-	-
	30～39歳	81	91.4	74.1	51.9	61.7	54.3	33.3	34.6	34.6	24.7	17.3	8.6	2.5	-	-	1.2
	40～49歳	104	85.6	68.3	50.0	60.6	49.0	39.4	37.5	34.6	19.2	13.5	9.6	3.8	2.9	-	2.9
	50～59歳	123	83.7	82.1	58.5	52.8	53.7	54.5	39.8	28.5	21.1	27.6	23.6	11.4	-	1.6	1.6
	60～69歳	119	85.7	88.2	64.7	56.3	56.3	53.8	38.7	24.4	24.4	25.2	23.5	6.7	1.7	-	4.2
	70歳以上	126	72.2	90.5	63.5	48.4	38.9	55.6	33.3	22.2	27.8	31.0	26.2	5.6	0.8	0.8	2.4

食料品選択にあたっての重視点としては、「価格」が81.8%と最も高く、次いで「鮮度」71.8%、「安全性」52.1%、「おいしさ」51.2%、「好み」49.9%と続いています。

性別にみると、「旬・季節感」、「鮮度」、「産地」、「安全性」の4項目は男性よりも女性のほうが10ポイント以上高くなっています。

性・年齢別に見ると、女性の50歳以上では「鮮度」を重視している人が8割以上と、他と比べて高くなっています。

7 食品の安全性について、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。



〔性・年齢別〕

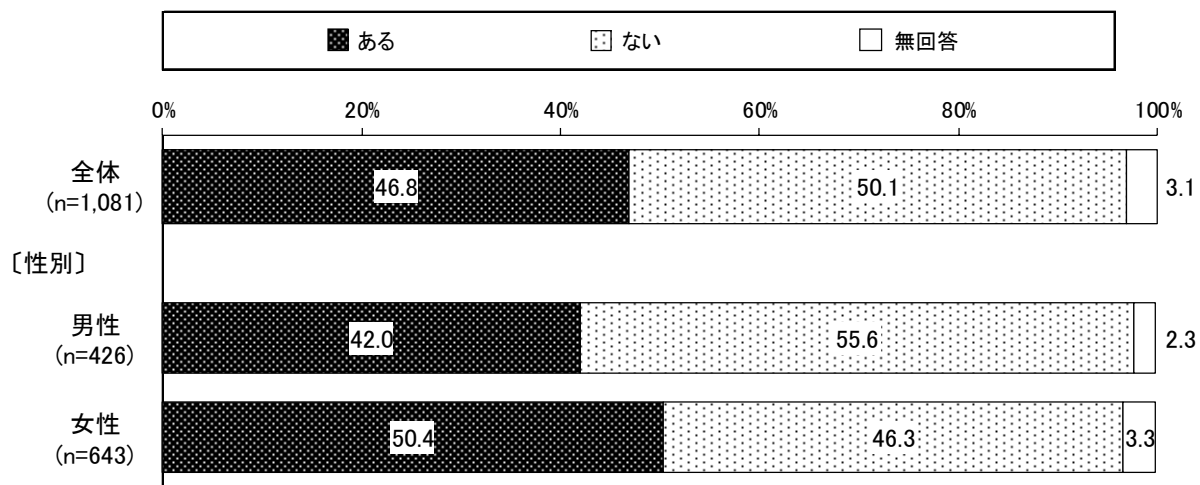
		回答数	ある	少しある	あまりない	ない	無回答
男性	19歳以下	10	10.0	40.0	10.0	40.0	—
	20～29歳	39	5.1	43.6	25.6	23.1	2.6
	30～39歳	50	10.0	38.0	36.0	14.0	2.0
	40～49歳	72	8.3	37.5	37.5	16.7	—
	50～59歳	84	9.5	29.8	47.6	11.9	1.2
	60～69歳	90	5.6	40.0	37.8	14.4	2.2
	70歳以上	79	8.9	34.2	36.7	12.7	7.6
女性	19歳以下	10	—	50.0	50.0	—	—
	20～29歳	55	5.5	49.1	34.5	10.9	—
	30～39歳	81	7.4	38.3	42.0	11.1	1.2
	40～49歳	104	8.7	43.3	37.5	7.7	2.9
	50～59歳	123	9.8	52.8	29.3	6.5	1.6
	60～69歳	119	14.3	54.6	21.8	4.2	5.0
	70歳以上	126	18.3	59.5	12.7	5.6	4.0

食品の安全性に関する知識については、「ある」と「少しある」を合わせた《ある》の割合が54.9%、「あまりない」と「ない」を合わせた《ない》の割合が42.1%となっています。

性別にみると、《ある》の割合は、男性の44.4%に対し、女性は62.0%と大きな差がみられます。

性・年齢別にみると、《ある》の割合は、女性70歳以上で77.8%と最も高く、男性50歳代で39.3%と最も低くなっています。

8 自分で野菜を作った経験（家庭菜園などを含む）はありますか。



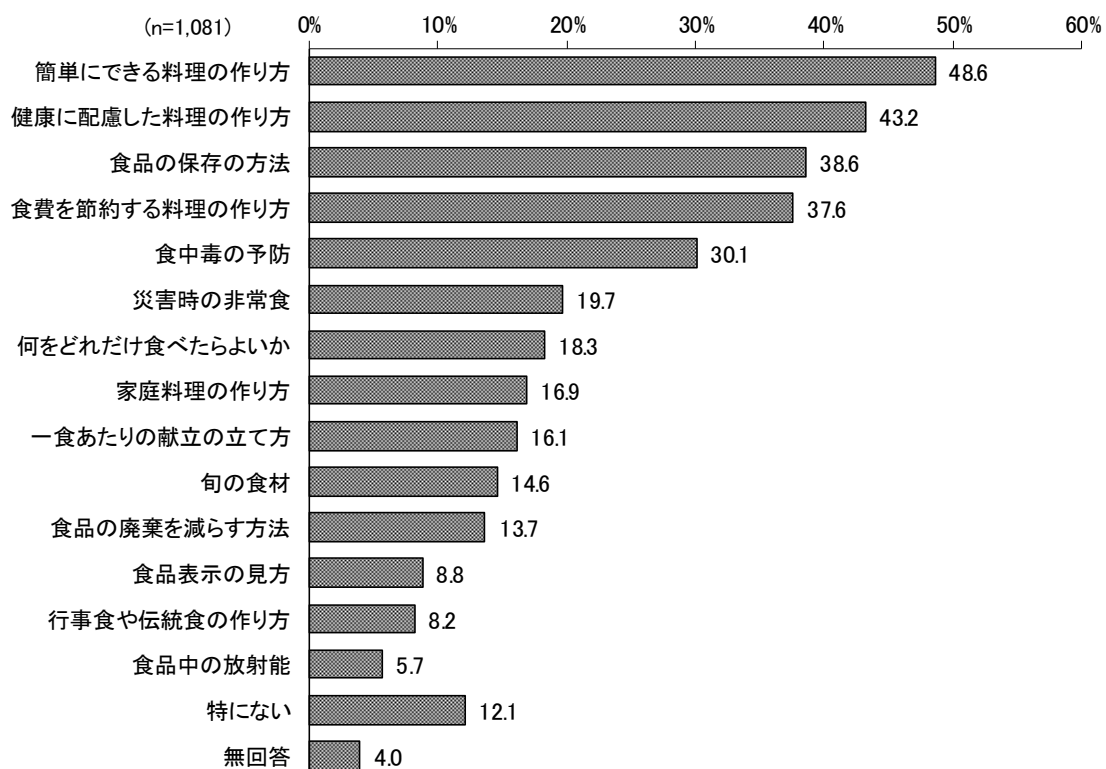
〔性・年齢別〕

		回答数	ある	ない	無回答
男性	19歳以下	10	70.0	30.0	-
	20～29歳	39	35.9	61.5	2.6
	30～39歳	50	44.0	56.0	-
	40～49歳	72	51.4	47.2	1.4
	50～59歳	84	34.5	64.3	1.2
	60～69歳	90	41.1	56.7	2.2
	70歳以上	79	39.2	54.4	6.3
女性	19歳以下	10	80.0	20.0	-
	20～29歳	55	49.1	47.3	3.6
	30～39歳	81	44.4	54.3	1.2
	40～49歳	104	51.9	44.2	3.8
	50～59歳	123	50.4	48.0	1.6
	60～69歳	119	50.4	44.5	5.0
	70歳以上	126	53.2	42.9	4.0

自分で野菜を作った経験が「ある」と回答した人は、46.8%となっています。

性・年齢別にみると、女性は全ての年代で「ある」の割合が4割を超えていますが、男性は20歳代と50歳代で3割半ばにとどまっています。

9 食品の選択や調理について、身につけたい知識は何ですか。

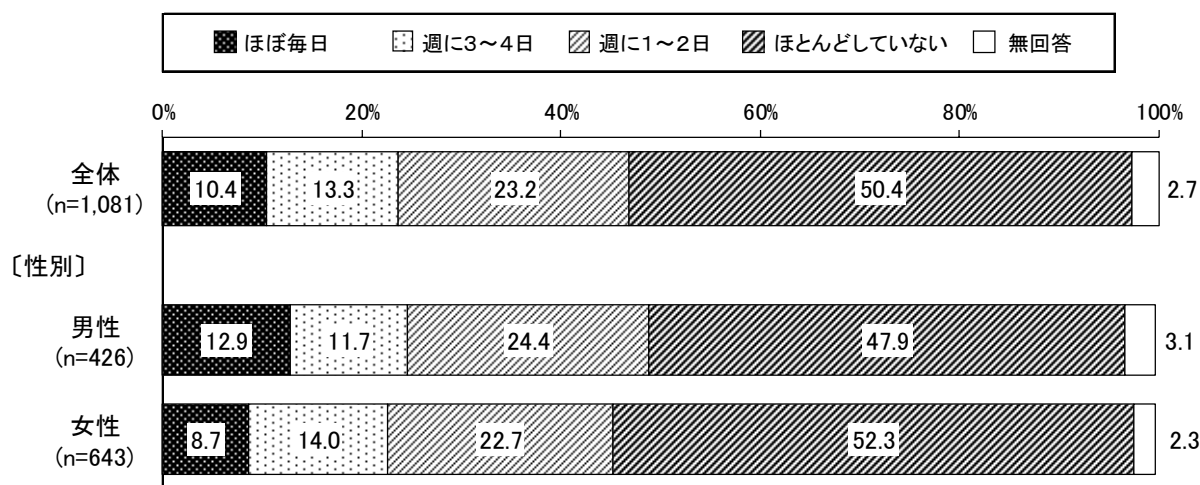


		回答数	簡単に できる 料理の 作り方	健康に 配慮し た料理 の作り 方	食品の 保存の 方法	食費を 節約す る料理 の作り 方	食中毒 の予防	災害時 の非常 食	何をど れだけ 食べた らよい か	家庭料 理の作 り方	一食あ たりの 献立の 立て方	旬の食 材	食品の 廃棄を 減らす 方法	食品表 示の見 方	行事食 や伝統 食の作 り方	食品中 の放射 能	特にな い	無回答
性別	男性	426	40.4	33.8	29.1	28.4	24.4	17.8	14.8	15.3	11.0	12.4	10.3	7.3	5.4	2.1	16.9	3.8
	女性	643	54.1	49.5	44.9	43.7	33.7	21.2	20.7	18.0	19.3	15.4	15.7	9.5	9.8	7.8	9.0	3.7
男性	19歳以下	10	30.0	20.0	20.0	30.0	-	10.0	10.0	30.0	-	20.0	10.0	-	10.0	-	20.0	10.0
	20～29歳	39	41.0	43.6	25.6	41.0	30.8	12.8	15.4	10.3	5.1	15.4	5.1	7.7	5.1	2.6	10.3	2.6
	30～39歳	50	48.0	32.0	28.0	34.0	30.0	26.0	24.0	26.0	22.0	18.0	6.0	8.0	12.0	6.0	10.0	2.0
	40～49歳	72	38.9	34.7	29.2	33.3	13.9	16.7	9.7	9.7	11.1	8.3	9.7	4.2	9.7	2.8	25.0	1.4
	50～59歳	84	42.9	34.5	32.1	31.0	23.8	22.6	14.3	10.7	10.7	9.5	13.1	9.5	4.8	2.4	16.7	1.2
	60～69歳	90	42.2	33.3	28.9	22.2	25.6	14.4	14.4	14.4	10.0	11.1	10.0	6.7	2.2	1.1	17.8	2.2
	70歳以上	79	31.6	29.1	29.1	16.5	29.1	13.9	15.2	17.7	7.6	13.9	12.7	8.9	1.3	-	16.5	11.4
女性	19歳以下	10	50.0	50.0	50.0	60.0	50.0	50.0	30.0	30.0	50.0	30.0	30.0	10.0	20.0	10.0	-	-
	20～29歳	55	61.8	54.5	41.8	52.7	32.7	16.4	18.2	29.1	40.0	9.1	5.5	14.5	7.3	5.5	5.5	1.8
	30～39歳	81	65.4	58.0	56.8	54.3	37.0	32.1	23.5	29.6	28.4	19.8	17.3	9.9	18.5	4.9	3.7	1.2
	40～49歳	104	55.8	53.8	43.3	56.7	27.9	20.2	20.2	21.2	23.1	13.5	17.3	9.6	14.4	6.7	4.8	2.9
	50～59歳	123	49.6	51.2	44.7	39.8	35.0	22.0	17.1	11.4	12.2	17.9	13.8	11.4	12.2	7.3	10.6	2.4
	60～69歳	119	51.3	43.7	42.9	41.2	33.6	19.3	23.5	10.9	13.4	10.1	16.0	8.4	5.9	7.6	12.6	4.2
	70歳以上	126	50.0	42.9	40.5	28.6	32.5	15.9	19.0	15.9	11.1	18.3	16.7	7.1	3.2	10.3	13.5	7.1

食料品の選択や調理について身につけたい知識としては、「簡単にできる料理の作り方」が48.6%と最も高く、次いで「健康に配慮した料理の作り方」43.2%、「食品の保存方法」38.6%、「食費を節約する料理の作り方」37.6%、「食中毒の予防」30.1%と続いています。

(4) 身体活動・運動について

1 汗をかく程度の運動（ウォーキング、ジョギング、スポーツなど）をどのくらいしていますか。



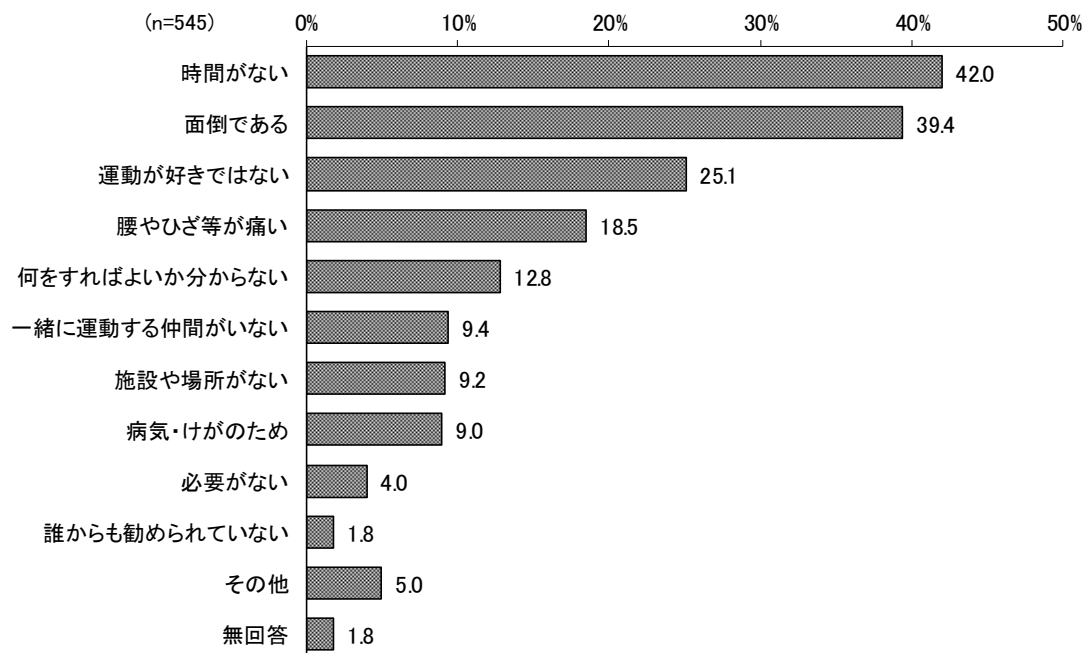
〔性・年齢別〕

		回答数	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんどしていない	無回答
男性	19歳以下	10	40.0	10.0	20.0	30.0	—
	20~29歳	39	5.1	10.3	28.2	53.8	2.6
	30~39歳	50	4.0	16.0	22.0	58.0	—
	40~49歳	72	15.3	12.5	26.4	44.4	1.4
	50~59歳	84	10.7	7.1	23.8	57.1	1.2
	60~69歳	90	12.2	11.1	24.4	47.8	4.4
	70歳以上	79	20.3	15.2	24.1	32.9	7.6
女性	19歳以下	10	—	10.0	50.0	40.0	—
	20~29歳	55	5.5	10.9	27.3	54.5	1.8
	30~39歳	81	6.2	3.7	21.0	65.4	3.7
	40~49歳	104	6.7	11.5	21.2	58.7	1.9
	50~59歳	123	8.9	11.4	21.1	57.7	0.8
	60~69歳	119	8.4	21.0	21.8	47.9	0.8
	70歳以上	126	13.5	18.3	24.6	38.1	5.6

汗をかく程度の運動の頻度は、「ほとんどしていない」の割合が50.4%と最も高く、次いで「週に1~2日」23.2%、「週に3~4日」13.3%、「ほぼ毎日」10.4%となっており、「ほぼ毎日」、「週に3~4日」、「週に1~2日」を合わせた《週1回以上》の割合は46.9%となっています。

性・年齢別にみると、男性は全ての年代で《週1回以上》の割合が4割を超えていますが、女性は30歳代で約3割と他と比べてやや低くなっています。

2 (汗をかく程度の運動を「ほとんどしていない」方について) 運動をしない理由は何ですか。



〔性別・／性・年齢別〕

		回答数	時間がない	面倒である	運動が好きではない	腰やひざ等が痛い	何をすればよいか分からない	一緒に運動する仲間がいない	施設や場所がない	病気・けがのため	必要がない	誰からも勧められていない	その他	無回答
性別	男性	204	45.6	41.7	22.1	14.7	13.7	9.8	11.3	10.8	6.4	2.9	2.9	2.0
	女性	336	40.2	38.7	26.8	20.8	12.2	9.2	7.7	8.0	2.7	0.6	6.3	1.8
男性	19歳以下	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-
	20～29歳	21	57.1	47.6	28.6	-	4.8	14.3	4.8	9.5	-	-	4.8	-
	30～39歳	29	65.5	44.8	24.1	3.4	17.2	6.9	13.8	3.4	3.4	6.9	-	-
	40～49歳	32	59.4	34.4	21.9	18.8	-	9.4	15.6	9.4	15.6	-	3.1	-
	50～59歳	48	47.9	47.9	22.9	20.8	20.8	8.3	12.5	10.4	4.2	2.1	6.3	2.1
	60～69歳	43	34.9	44.2	18.6	18.6	18.6	16.3	11.6	16.3	2.3	4.7	-	2.3
	70歳以上	26	7.7	34.6	23.1	19.2	11.5	3.8	7.7	15.4	11.5	3.8	-	7.7
女性	19歳以下	4	100.0	100.0	25.0	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-	-	-
	20～29歳	30	50.0	73.3	36.7	3.3	20.0	13.3	10.0	-	-	-	6.7	-
	30～39歳	53	62.3	56.6	34.0	7.5	3.8	9.4	11.3	1.9	-	-	3.8	-
	40～49歳	61	45.9	47.5	27.9	13.1	16.4	8.2	9.8	4.9	4.9	-	9.8	-
	50～59歳	71	43.7	29.6	28.2	12.7	14.1	4.2	11.3	7.0	2.8	1.4	9.9	1.4
	60～69歳	57	24.6	22.8	21.1	31.6	10.5	12.3	1.8	10.5	3.5	1.8	5.3	3.5
	70歳以上	48	12.5	18.8	16.7	56.3	10.4	8.3	4.2	20.8	2.1	-	2.1	4.2

運動をしない理由については、「時間がない」が42.0%と最も高く、次いで「面倒である」39.4%、「運動が好きではない」25.1%、「腰やひざ等が痛い」18.5%と続いています。

性・年齢別にみると、「時間はない」は男女ともに30歳代で6割を超えて高く、「面倒である」は女性20歳代で7割を超えて高くなっています。

第3次大和市食育推進計画策定の経過

令和5年	●	4月	大和市食育推進チーム部会（第1回）
	●	5月	第1回 大和市食育推進会議 食育に関する市民意識調査 対象：2,500名 回収：1,081名 回収率：43.2% 大和市食育推進チーム部会（第2回）
	●	6月	大和市食育推進チーム部会（第3回）
	●	7月	大和市食育推進チーム部会（第4回）
	●	8月	大和市食育推進チーム部会（第5回）
	●	9月	大和市食育推進チーム部会（第6回）
	●	10月	第2回 大和市食育推進会議
	●	11月	第2次大和市食育推進計画の1年延伸が決定
令和6年	●	1月	大和市食育推進チーム部会（第7回）
	●	3月	学識経験者への意見聴取 相模女子大学栄養科学部健康栄養学科 堤ちはる 教授
	●	4月	大和市食育推進チーム部会（第1回）
	●	5月	大和市食育推進会議（第1回）大和市食育推進チーム部会（第2回）
	●	6月	大和市食育推進チーム部会（第3回）
	●	7月	大和市食育推進チーム部会（第4回）
	●	8月	学識経験者への意見聴取 相模女子大学栄養科学部健康栄養学科 堤ちはる 特任教授
	●	9月	大和市食育推進チーム部会（第5回） 関係団体への意見聴取
	●	10月	大和市食育推進会議（第2回）
	●	12月	大和市食育推進チーム部会（第6回）
令和7年	●	1月	市民意見公募手続（パブリックコメント）
	●	2月	大和市食育推進会議（第3回）
	●	3月	第3次大和市食育推進計画策定・市議会への情報提供

市民意見公募結果

実施期間：令和7年1月6日（月）～令和7年2月5日（水）

計画の配架等：健康づくり推進課、本庁舎情報公開コーナー、保健福祉センター、市民課分室及び連絡所
各学習センター、各コミュニティセンター、市ホームページ

応募結果：提出者 0 名 意見件数 0 件

大和市食育推進会議設置要領

(目的)

第1条 この要領は、大和市食育推進計画（以下「推進計画」と総称する。）を推進するために、庁内関係課及び室（以下「課等」という）の連携及び協力を図る大和市食育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について協議、検討等を行う。

- (1) 推進計画に掲げる具体的な取組に関すること。
- (2) 複数の課等が連携する取組の調整に関すること。
- (3) 推進計画の評価及び改定に関すること。
- (4) その他、推進会議で必要と認めたこと。

(委員)

第3条 推進会議は、推進計画主管課、別表1に掲げる課等の長（以下「委員」という。）をもって構成する。

(会長及び副会長)

第4条 推進会議に会長及び副会長を置き、会長は推進計画主管課の課長をもって充て、副会長は会長が指名する。

- 2 会長は、推進会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長が欠けたとき、又は会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(推進会議の招集等)

第5条 推進会議は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 推進会議は、必要があるときは委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(部会)

第6条 推進会議には部会として食育推進チームを設置し、チームの構成員には別表2に掲げる課等の担当者をもって充てる。

- 2 前項に掲げるチームにチームリーダーを置き、チームリーダーは会長が指名する。
- 3 チームリーダーはチームを掌理し、チームで協議、検討した結果を推進会議に報告しなければならない。

(庶務)

第7条 推進会議の庶務は、推進計画主管課が行う。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は推進会議で協議して定める。

別表第1（第3条関係）

別表第2（第6条関係）

附則

この要領は、平成28年10月1日から施行する。

附則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和2年9月1日から施行する。

附則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

用語解説（50音順）

栄養教諭	児童・生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる教員。 (学校教育法第37条13号)	健康普及員	自治会から選出され、地域の健康づくりの推進役として、市内11地区で、健康づくりのための活動を行う人。
栄養成分表示	容器包装に入れられた加工食品及び添加物には、食品に含まれる栄養成分に関する情報を明らかにし、消費者に適切な食生活を実践するために、栄養成分（熱量（エネルギー）、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム）が表示されているもの。	こども食堂	子どもやその保護者および地域住民に対し、無料または安価で「栄養のある食事・温かな団らん」を提供するための日本の社会活動。
通いの場	地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所。また、地域の介護予防の拠点となる場所。	残食率	提供した食事の重量に対する、食べ残した重量の割合。
完全給食	パン又は米飯（これらに準ずる小麦粉食品、米加工食品その他の食品を含む。）、ミルク及びおかずである給食。	食事バランスガイド	1日に、「何を」、「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考になるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすく示したもの。 健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」（平成12年3月）を具体的に行動に結びつけるものとして、平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が決定。
既往歴	過去の病歴や健康状態に関する記録。		
共食	食を共にすること、一緒に食べることでなく、会話をすることも含む。		
血糖値	血液中のグルコース（ブドウ糖）の濃度。		
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。	食生活改善推進員	食改（ヘルスメイト）の愛称で呼ばれ、地域で食生活改善や健康づくりのボランティア活動を行う人。推進員になるには、市が実施する食生活改善推進員養成講座を修了する必要がある。
健康支援型配食サービス	管理栄養士のアドバイスを受けた配食事業者が、適切に栄養管理されたお弁当を、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の自宅に配達してくれるサービス。	食物アレルギー	食事をしたときに、身体が食物（に含まれるたんぱく質）を異物として認識し、自分の身体を防御するために過敏な反応を起こすこと。



生活習慣病	生活習慣（食、運動、喫煙、飲酒、休養など）が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。糖尿病、高血圧、脂質異常症、心疾患や脳卒中がある。	内臓脂肪	体脂肪のうち、内臓の周囲についた脂肪のこと。内臓脂肪が多い内蔵型肥満は、生活習慣病になりやすいと言われている。
生活不活発病（廃用症候群）	病床での寝たきり状態や安静状態が長期に渡って続くことによって起こる、さまざまな心身の機能低下。	ブドウ糖	果実のほか、ハチミツなどに多く含まれている単糖類の一種。ご飯やパンなどの炭水化物が、体内の消化酵素によって細かく分解されることで産出される。
地域活動栄養士	地域で母子保健、生活習慣病予防、介護予防の観点から、食生活改善のサポートをしているフリーランスの管理栄養士・栄養士。団体に所属して、活動していることが多い。	フレイル	加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態。適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像。
地産地消	地域生産地域消費の略称で、地元でとれた生産物をその地域で消費すること。	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満（腹囲が男性で85cm以上、女性で90cm以上）に、高血糖・高血圧・脂質異常の3つのうち2つ以上が重なった状態。
厨芥類	家庭の台所、給食調理場や飲食店、青果市場等の事業所から出てくる野菜くずや食べ物の残り等のこと。	ライフコースアプローチ	胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり
低栄養	健康な体を維持し、活動するために必要なエネルギーとたんぱく質が欠乏した状態。	BMI	ボディ・マス・インデックス (Body Mass Index) の略称で、体重と身長の関係から算出される肥満度を表す体格指数のこと。
低出生体重児	出生体重が2,500g未満の新生児。1,500g未満を極低出生体重児、1,000g未満を超低出生体重児といい、低出生体重児には極低出生体重児、超低出生体重児を含む。	ICT	Information and Communication Technology の略。情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。
特定保健指導	特定健診で、メタボリックシンドローム予備群に該当した人が、生活習慣病予防のために受ける保健指導。	JASマーク	JAS規格が定められた品目について、その該当するJAS規格に適合していると判定することを格付といい、格付を行った製品にはJASマークをつけることができる。
特別用途表示	乳児の発育や、妊産婦、授乳婦、えん下困難者、病者などの健康の保持・回復などに適するという特別の用途について表示を行うもの。	SDGs（持続可能な開発目標）	先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標。「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされている。